

高畠高生の活躍

3年次「総合的な探究の時間」に地元の魅力を探るグループ 通称「高畠ゼミ」の学園祭での活動の様子が、新聞に掲載されました。

学園祭で地元特産品を販売



学校を存続させるというテーマの下、高畠町の高畠高（吉田晴美校長）の生徒は、自分たちに何ができるかを考え、行動し、学校の魅力を高める取り組みを進めている。東京大の学生の協力で企画を練り、先月の同校の学園祭で地元の特産品を販売し、来場者に地域と学校をアピールした。

高畠高の入学人数は減少傾向 人の半分に満たない38人だつた。2023年度は定員80 だ。現状打開の糸口を見つけよ

高畠高等学校の魅力高める活動

東大生が助言、カフェを開設

うと、3年生の履修科目「総合的な探究の時間」に、地元の魅力を探る活動を加えた。通称「高畠ゼミ」で、7人が履修している。

自治体が抱える課題の解決策を提案する東大の「FS（フィールドスタディー）型政策協働プログラム」に参加する学生5人が、高畠ゼミをサポートしている。両者は週1回、オンラインで課題解決策を話し合っている。学生が「生徒がやりたいことを自由に楽しんでいる姿は、魅力的に見えるはずだ」と助言し、高畠ゼミ生は学校でカフェを実施するプランを提示。10月28日の学園祭で「はたこうカフェ」を開設し、町内企業の商品を販売することになった。

学園祭当日、アドバイスした学生5人も加わり、パンや洋菓子、りんごジュースなどを販売した。多くの来場者でにぎわった。「思った以上に盛況で、やりがいがあった」と高畠ゼミ生の大河原こころさん（17）。今後の活動は未定だが「多くの人に学校の魅力を知ってもらいたい」と話し、次のチャレンジに向けて意気込んだ。

（菊地健介）

「はたこうカフェ」で地域をアピールする高畠ゼミ生ら 〓高畠町・高畠高

令和5年11月11日（土）「山形新聞」から